School Live 学校生中継

晃華学園中学・高校 （東京都調布市）

東京都調布市にある晃華学園中学・高校では、有志の生徒たちによるチーム「GOALs（ゴールズ）」が、東日本大震災で被災した福島県の復興や情報発信のために奮闘しています。どのような活動をしているのか、探ってみましょう！

【生徒数】中学：474人、高校：429人
【歴史】1963年に開校。晃華は「光り輝く華」を意味し、聖母マリアを表す
【高校卒業後の進路】約1割が国公立大学に進学。首都圏以外の大学を選ぶ生徒も

災害の風化防ぐ 情報発信

「福島で作られたタオルなんです。よかったら見てください！」

8月のある日、東京都渋谷区で開かれた能登半島地震や東日本大震災からの復興を支援するイベントで、「GOALs」の高校生たちが、千葉県の柏陵高校の生徒たちと一緒にタオルの販売をしていました。

GOALsは東日本大震災の記憶が薄れていることに問題意識を持つ生徒たちが、2022年から始めた活動です。現在は10人ほどが活動しており、連携している他校の生徒や団体の職員と月に1～2回、都内で集まり、活動内容や福島の支援方法などについて話し合っています。

福島県を訪れ、中間貯蔵施設を見学する生徒（2024年4月）

福島の「今」見つめる

この日、売っていたタオルは、福島県いわき市の衣料品製造会社「起点」が福島産の綿花から作ったものです。東京電力福島第一原子力発電所の事故による風評被害に苦しむ地元の農家を元気づけるため、この会社が行っている取り組みに協力しようと、生徒たちも雑巾きや収穫の手伝いをしたり、タオルの販売を行ったりしているのです。

また4月には、福島県大熊町や双葉町を訪れ、除染された土を保管する中間貯蔵施設を見学。震災直後の生々しい状態が残る大熊町の小学校にも足を運び、福島の「今」にもしっかり目を向けています。

初めて福島を訪れた高校1年の柱木真歩さん（16）は「当たり前だと思っていた生活が災害で一変してしまうことを実感できた。GOALsの活動を通じて福島がどうなっているかを発信していきたい」と話します。

他校とツアーも予定

GOALsの活動は昨年、環境大臣賞を受賞しました。11月には他校の中高生と一緒に、福島を訪れるツアーも予定しているそう。震災から13年がたっても、復興を支援するため、自分たちにできることを考え続けているのです。

震災・復興 知る機会に

高校2年
渡辺瑠璃さん（16）

東日本大震災が起きたのは13年以上前。経験していても幼くて記憶がなかったり、生まれる前の出来事でよくわからなかったりする中高生も多くいます。私は当時3歳で、福島県いわき市に住んでおり、激しい揺れを体験しました。当時の恐怖や教訓は今でも覚えており、東日本大震災を体験している「最後の世代」という思いがあります。

GOALsの活動で福島の現状を発信するだけでなく、小学校などで震災の体験を語ることもあります。これからも震災や復興について、多くの人に考えてもらうために活動したいです。

「自分の学校も取材してほしい！」という読者の推薦も受け付け中。件名を「School Live応募」とし、学校名や自薦点を書いてchukousei@yomiuri.comまで送ってください。

＊毎月第1週に掲載します。

カトリックの教え 学ぶ

文化

キリスト教系の女子校で、カトリックの教えに基づいた教育をしている。毎日朝礼、終礼で祈りの時間が設けられているほか、イースター（復活祭）やクリスマスなど、キリスト教の主要なイベントも学校行事に取り入れている＝写真＝。

週に1時間、「宗教」の授業があり、聖書の教えやイエス・キリストの生涯などを学び、聖書の教えが現代にどう生きているかなどを学んでいる。カトリックの精神を学ぶことで、生徒たちが他人への思いやりに満ちあふれた品格のある女性に成長することを目指している。

三大行事 生徒が運営

行事

1年間の「三大行事」は、5月の体育祭、9月の文化祭、2月の合唱コンクール。中学1年から高校3年までの各クラスから選ばれた生徒による実行委員会がそれぞれの行事で入場の配置や会場の設営などを担い、生徒の自主性を育てている。

体育祭＝写真＝では、各学年のA、B、C、D組がクラスごとにチームを組んで対抗戦を行い、学年を超えて交流できるようにしている。リレーや大縄跳びなどの競技だけでなく、応援合戦でもその力を競い合い、毎年大きな盛り上がりを見せる。

課外でSDGs活動を企画

特色

持続可能な社会づくりを目指す教育「ESD」にも力を入れている。2018年には、全国の中高一貫校で初めて、この活動を推進する「ESD活動支援センター」の地域活動推進拠点として認められた。

通常の授業と並行に、SDGsや異文化理解につながる20ほどの活動を生徒が企画・運営。これまでには環境への負荷が少ないパナナの繊維を利用した紙のメリットをまとめたポスターを校内で掲示したり、教室で使用したチョークの粉を集めて作り直したりしており、活動一覧を紹介するポスター＝写真＝も作っている。